

明石と無錫 一衣帯水 ～32年の友好交流～

明石市文化・スポーツ部文化振興課

明石市と無錫市の紹介

明石市は、瀬戸内海に面し、古くは万葉歌人柿本人麻呂によって多くの歌が詠まれた、人口29万人の風光明媚な都市です。世界最長のつり橋である明石海峡大橋を臨み、東経135度の子午線が通る「日本標準時のまち」としても知られています。また、明石海峡の激しい潮流にもまれて身の引き締まった明石鯛や明石蛸是全国的な知名度を誇ります。

中国江蘇省にある無錫市は、上海市と南京市のほぼ中間に位置しており、南に中国五大淡水湖のひとつである太湖を臨み、江南の名城と呼ばれる長江（揚子江）流域の美しい古都です。近年では総合工業都市として急成長を遂げ、人口640万人を超える中国の経済中心都市のひとつとなっています。

「最も古き良き友人」

1972年9月29日、日中共同声明が発表され日中国交回復が実現しました。

翌73年、明石市は中華人民共和国中日友好協会会長に文書で友好都市提携の申し入れを行い、中国の都市との友好提携に向けて動き始めました。

明石市と無錫市のつながりは、1977年に「第一次明石市各界代表友好訪中団」が訪れて以来本格化しました。その後も各種団体が相次いで訪中するなど交流を続け、1980年には両市市長の相互訪問が実現しました。そして1981年8月29日、無錫市人民大会堂において無錫市・明石市友好都市締結調印式が執り行われ、両市は友好都市となりました。

現在では世界中に多くの友好都市をもつ無錫市ですが、その中でも明石市は最初に友好都市提携を結んだ都市として、提携から32年たった現在でも「最も古き良き友人」としてとても大事にしてくださっ

ています。

これまでの交流

明石市と無錫市は、1981年の友好都市締結以来、これまで、文化、スポーツ、教育など幅広い分野でさまざまな交流を行ってきました。両市代表団の相互訪問のほか、いけばなや着物の民間団体が無錫市を訪問したり、無錫市の歌舞団や料理人が明石市を訪問するなどして市民間の交流を積み重ねてきました。そのほかにも、明石市日中友好協会や明石市太極拳協会といった民間団体が頻繁に無錫市を訪問し、長年交流を深めています。

近年では毎年、無錫市の職員を3週間ほど明石市役所で受け入れており、それぞれの業務に関連する部署で、日本の行政の仕組みや制度などについて研修を行っています。また、滞在中には、研修だけでなく、地元の中国語学習サークルや高校を訪問するなど、市民との交流も行っています。



無錫市少年少女芸術団の来明（1991年）

音楽を通じた交流

2011年8月には、明石市と無錫市の友好都市提携30周年記念事業として、明石市吹奏楽連盟の主催で、明石市立中学校選抜吹奏楽訪中団を無錫市へ派遣して現地で演奏会を開催し、大成功を収めました。また、同年11月には無錫市より中高生の駅伝交流団を受け入れ、明石公園において多数の市民参加のもと記念駅伝大会を開催したほか、無錫市の代表団を迎えて祝賀会を開くなど30周年を盛大に祝いました。

それから2年たった今年、今度は明石市主催の事

業として、市内中学校の吹奏楽部に所属する中学生57人で明石市中学生選抜吹奏楽訪中団を結成し、昨年完成したばかりの無錫大劇院（オペラ



無錫大劇院での演奏会

ハウス）で、友好都市提携記念日の8月29日に演奏会を開催することとなりました。

演奏会当日は、開場前に突然降り出した豪雨に客足を心配しましたが、雨にぬれながらも、たくさんの無錫市民の方が会場まで足を運んでくださいました。団員たちも、異国の地で演奏することへの緊張があったと思いますが、練習の成果を十分に発揮し、見事な演奏を聴かせることができました。アンコール曲では手拍子も起こり、舞台と客席が一体となるのを感じました。

30周年を祝った2年前と比べて、現在、国同士の関係はぎくしゃくしており、地方自治体の間でも友好都市交流がストップしているところもたくさんあります。しかし、今回訪中した明石市の中学生を迎え入れてくださった無錫市民の皆さまの、温かい拍手に決して偽りはなかったと感じています。

無錫大劇院での演奏会の前日には、市内のショッピングモールでも演奏を行いました。そこでは、買い物の途中に足をとめて演奏に聴き入る方、カメラを取り出して撮影する方、リズムを取りながら手拍子を打つ方など、たくさんの方に演奏を聴いていただくことができました。演奏会終了後には、無錫で音楽を専門に学んでいる同年代の子どもたちとの交流の時間もありました。短い時間でしたが、「名前は何ですか」、「放課後に練習するんですか」、「好きな日本食は何ですか」など、お互いに英語で、時には通訳を交えて楽しそうに交流する姿が印象的でした。



無錫市の中学生と交流

やはり実際に現地に来て、お互い顔を合わせて、直接言葉を交わしてこそ感じあえるものがあることを

実感した団員も多かったのではないのでしょうか。また、当日の演奏会と学生交流の様子は、翌日の現地新聞にも掲載され、無錫市民の方に広く知っていただくことができました。

今回の派遣は、市主催ではありましたが、訪中前の練習から現地での引率、演奏指導まで、事業の実施にあたって明石市吹奏楽連盟の先生方に多大なご協力をいただきました。子どもたちにぜひ貴重な経験をさせてあげたいという先生方の熱意があつてこそ成功した事業だと思います。

参加した団員たちからも、「訪中前は、言葉も文化も違う土地へ行って演奏することへの不安があったけど、演奏会で無錫のお客さんが温かい拍手をしてくれてうれしかった」、「言葉では通じなくても音楽で心が通じ合えたと思う」、「無錫の中学生と英語や身ぶり手ぶりでコミュニケーションがとれて仲良く話ができた」、「以前より人の気持ちを考えて行動するようになった。それは他の国の人の気持ちを考えることも同じだと思う」、「嵐の中を来てくださったたくさんのお客さんに感謝を込めて楽しく演奏することができた」といった、海外で貴重な体験をして、一回り大きく成長したことを感じられる感想が数多く寄せられました。

重点は青少年交流へ

明石市は、現在、無錫市のほかに、アメリカ・カリフォルニア州のバレーホ市と姉妹都市提携を結んでいます。今年で提携45周年を迎え、8月には15人の中高生がバレーホ市を訪問し、現地でホームステイをしながら交流を深めました。

長年続いてきた交流を次世代へ引き継ぎ、さらに交流を深めていくためには、今後は今まで以上に青少年交流が重要であると考えています。そのため、無錫市との交流も、これまで中心だった行政同士の交流から、青少年のスポーツ・文化を中心とした交流へと重点を移していくことができればと考えています。これらの姉妹都市・友好都市交流事業が、若い世代が世界に興味を持ち、自国の文化を再認識し、異文化を理解するきっかけとなってくれればと考えています。